

噴火の種類

説明

ブルカノ式噴火

大きな音とともに爆発的^{ばくはつ}な噴火^{ねば}をします。粘り気^{ねば}の強い溶岩^{よう}の火山^{がん}でよく見られます。爆発^{ばくはつ}のときの空気^{しんどう}の振動でガラスが割れることもあります。



日本に多いタイプの火山で、写真の桜島では1年で何百回も爆発^{ばくはつ}しています。



桜島(鹿児島県)

粘性が強い溶岩により、火口が塞がれて内部の圧力が高まり、爆発的^{ばくはつ}な噴火になる。

説明

プリニー式噴火

この噴火も爆発的^{ばくはつ}な噴火ですが、プリニー式噴火では柱^かのように立ちのぼる噴煙^{ふんえん}が何時間も続きます。大量^{かるいし}の軽石とともに、噴煙^{ふんえん}を上^ふ空高く噴き上げるのがとくちょうです。



イタリアの古代^{こだい}のポンペイという町は、ベスピオという火山^{せん}がこの噴火をして全滅^{ぜんめつ}してしまいました。



ピナツボ火山(フィリピン)
(米国地質調査所)

ブルカノ式がパルス状の爆発であるのに対し、プリニー式は連続的に噴煙が立ち上がる。

噴火の種類

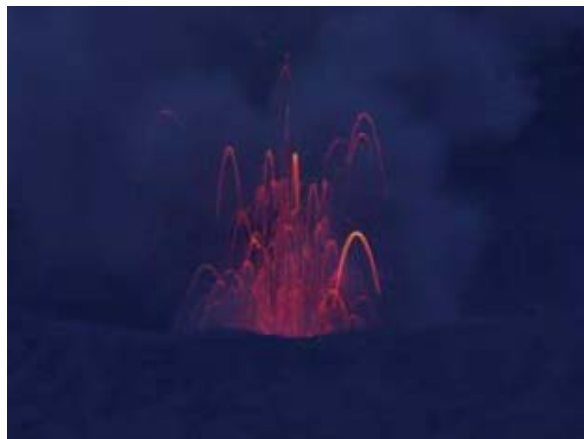
説明

ストロンボリ式噴火

溶岩^{ようがん}を噴^ふき上げては止^とまることを繰^くりかえす噴火^{ふん}です。1970～71年の秋田^{あきた}駒ヶ岳^{こまがたけ}の噴火^{ふん}では、爆発^{ばくはつ}を繰^くり返して溶岩^{ようがん}が流^{なが}れ出^でました。



この名前はイタリアにある火山からきています。



阿蘇山中岳火口(熊本県)

写真は花火のように見えるが、長時間露出で撮影しているためである。

説明

ハワイ式噴火

溶岩^{ようがん}がおだやかに噴^ふき出して、だらだらと流^{なが}れ出すタイプの噴火^{ふん}です。噴水^{ふんすい}のように噴^ふき出る溶岩^{ようがん}が、川のように流^{なが}れていきます。粘^{ねば}り気の少^{すく}ない溶岩^{ようがん}の火山^{ふん}にみられます。



溶岩^{ようがん}の粘^{ねば}り気が少^{すく}ないので、サラサラと流^{なが}れやすいです。



キラウエア火山(ハワイ)
(米国地質調査所)

日本では少^{すく}ないタイプの噴火^{ふん}。三宅島^{みやけ}が少^{すく}ない事例^じであったが、2000年の噴火^{ふん}の際は様相^{ようさう}が違^{ちが}っていた。

噴火の種類

1 噴火の種類とその理由

火山の噴火の種類に関係があるのは次のうちのどれでしょうか。①～③から選んでください。

- ① ようがん 溶岩の色に関係がある
- ② ねば 溶岩の粘り気に関係がある
- ③ 溶岩の水分に関係がある

溶岩の粘り気は溶岩自体の組成(二酸化珪素の含有量)により変わり、多いと粘性が強くなる。

2 日本で多い噴火の種類

日本で多い噴火の種類はどれでしょうか。①～③から選んでください。

- ① プリニー式噴火
- ② ハワイ式噴火
- ③ **ブルカノ式噴火**



プリニー式噴火も溶岩の粘性が強いが、規模はブルカノ式より大きく、発生頻度としては少ない

日本では溶岩の粘りようがん ねば気が強い火山が多いです。